「五人組仕置帳」（抄）
（史料出所：尼崎市『尼崎市史』第5巻６１２～６２１頁）
（原文には、ふりがなはないが読解の一助として倉橋が付けた）

元禄十一年
摂州川辺郡万多羅寺村
五人組御仕置帳
寅ノ三月

条々

一　前々従公儀度々出候御法度書之趣弥以堅相守、御制法之儀不相背様ニ村中小百性下々迄可申付事

一　五人組之儀町場は家並、在郷は最寄次第家五軒宛組合、子共并下人・店借り・借地之者ニ至迄悪事不仕様ニ組中常々無油断可令詮議、若徒もの在之て庄屋申付をも不用候ハ、可訴之事

一　人売買一切御停止ニ候事
附り、男女奉公人年季之儀公儀御定之通拾ケ年ヲ限り可申事

一　毎年宗門改帳三月迄之内ニ可差出、若御法度之宗門之者在之ハ早速可申出、切支丹宗門之儀御高札之旨可相守、宗門帳之通人別ニ念入宗門帳可相済候て、後召抱候下人等ハ寺請状別紙ニ可取置事

一　五人組宗門帳ニ押候外ニ別之印判拵置申間敷候、若子細候て印判替り候ハヽ庄屋・年寄ハ手代方迄可相断、其外之百性ハ庄屋・年寄へ可断、名を改候ハヽ早速致断五人組帳・宗門改帳ニも改候名を可記之事

一　切支丹ころひ之者并類族有之分ハ別帳ニ記之切支丹奉行え差出置之、若他村より縁組等ニて当村へ右之やから来候ハヽ早速可注進事

一　田畑并山林等永代売買御停止ニ候、若質物ニ入拾ケ年ヲ限リ質手形ニ庄屋・五人組加判可為仕、田畑質ニ入金銀ヲ借リ田地ヲ金主ニ為作則御年貢ハ地主より出候義不可仕事

（…略…）

一　惣て家業を第一ニ相勤へし、百性不似合遊芸を仕好或ハ悪心を以公事すきをいたし非公事をすゝめ偽りたくミ人之害をなすもの又は不孝之輩あらハ、不隠置可申出、何事ニよらす神水ヲ呑誓紙ヲ書候て申合一味同心いたし徒党かましき義不可仕事

一　盗賊悪党人有之ハ訴人可仕、
褒美可為取之、其上あたをなさゝる様ニ可申付事

一　百性衣類之儀結構成ものを不可着、名主妻子ともニ絹紬布木綿可着之、平百性は布木綿之外不可着之、りんす・さや縮緬之類ハゑり・帯ニも致間敷候、然とも平百性ニても身体宜敷ものハ手代迄断立差図ヲ請絹紬可着事
附り、男女ともに乗物ニのるへからす、惣て屋作等目ニ立候普請奢かましき義仕間敷事

一　聟取嫁取之祝義奢かましき義無之様ニ分限より軽ク可仕、人大勢集大酒不可呑候、所ニより蚊屋之祝・新宅之ひろめ・初産之いわひ不相応之祝仕候由可為停止、応分限内所ニて軽ク祝可仕候
附り、葬礼野酒一札停止之事

一　捨子堅不可仕、若他所もの捨置候ハ、村中ニて致養育早速可注進事

一　生類（ママ）憐之義心懸不実ニ無之様ニ可仕候、不仁義一切可致之事

一　猟師之外鳥獣一切取へからす、猟師たりといふ共鶴・白鳥取候義御停止ニ候、若村中ニて鶴・白鳥商売致すものあらハ可訴之事

（…略…）

一　当村ニ有之出家・社人・山伏・行人・道心者・非人等其外穢多之類迄常々致吟味候て胡乱成もの住居為仕間敷候、庄屋・年寄ニ不相達候て他所より来候ものニ一夜之宿をも不仕様ニ右之者とも義堅可申付事

一　村中之者内或ハ立退或ハ逐電或ハ身之上つふ

れ候て住居難成もの在之ハ可注進、又ハ他村を子細有之て立退候もの親類たりといふとも当村ニ一切不可差置事

（…略…）

一　百性田畑子孫ニ分ケ為取候とも壱人前之高五石より内に不可分、小高之百性ハ子孫ニ分為取間敷候、若子細候て分義も在之ハ可得差図、惣て新規ニ百性有付候ハヽ可注進、跡式之儀存生之内庄屋・年寄為立合書付置後日ニ出入無之様ニ可心懸事

一　前方帳ニ付有来ル酒屋之外、新酒屋又ハ請売之酒不可仕事

一　当村之内ニて能あやつり相撲又ハ狂言其外見セ物類之芝居為致間敷候、私領ニても分郷或ハ村隣ニても当村境目まきらハ敷地ニて致候ハヽ芝居不始以前早々可注進事

一　惣て遊女・野郎之類一切当村ニ置へからす、一夜之宿も致間敷事

（…略…）

一　田畑荒し置へからす、永荒場起返し切添又は新田畑在之ハ早速可申出、隠置脇より訴候ハヽ庄屋・年寄可為越度事

附り、たはこ本田畑ニ作候義停止之事

（…略…）

一　御伝馬宿へ定助・大助郷より人馬寄候ハヽ、問屋年寄致吟味猥ニ人馬触仕間敷候、其宿之馬をかこひ置面々勝手ニ能荷物を附候様成義一切不可仕候、御朱印は勿論駄賃伝馬人足之義常々致吟味置無滞様ニ可仕事

附り、助郷へ人馬触来候ハヽ刻限を不違可出之、若人馬割ニ難心得事候とも先無滞出之後日可申出事

（…略…）

一　御林・御立山之竹木ハ勿論枝葉・下草等迄公用之外伐採間敷候、縦令百性持林并屋敷・四壁之木ニても目立候木伐遣候は書付差出得差図可伐之事

一　入合之野山・面々之持山ニても草木之根を掘取間敷、鶴之觜を入候義可為停止、田畑え山崩砂入等無之様ニ山林ニ苗木を植立可申事

附り、山中ニて焼畑致来候所ハ格別野火附候義停止之事

一　諸作第一能種をゑらミ候て蒔、耕作可念入、荒し作り之様ニ致候ものあらハ急度可令詮義、独身之百性長煩又ハ幼少ニて親ニ離耕作仕付難成ハ有之ハ庄屋・年寄立会村中ニて助相、田畑不荒様ニ可仕事

附り、地所ニ不相応ニ田畑諸作ニ替り作おとり耕作ニ不精成もの有之ハ、吟味可仕、小検見之節も引方を為取間敷事

一　常々耕作并商売等も不致家職之かせき無之もの村中ニ在之ハ、遂吟味其趣可訴之事

（…略…）

一　御年貢皆済無之以前穀物他所へ不可出之、三分一銀・十分一銀納之為小米売候ハ先米納之員数積り納米ほと上米を拵置、次之余米ヲ売可申事

一　米納之儀庄屋・年寄立会青米・死米・くたけ・籾ぬか等無之様ニ随分致吟味、升目不切様ニ俵入可念入事

一　俵拵之儀二重こも、小口かゝり、すり縄ニて可仕、船積之節一俵つゝ薦ニて包、俵不損様ニ可致、俵之内へ入候中札ハ竹ニて国郡村之名・御代官之氏名・年号月日・庄屋・米主・升取・米見之名迄銘々ニ書付、致印判俵ことに可入之、外札ハ木ニても竹ニても国郡村・御代官氏名、米主之名斗可記之、札之裏俵之貫目可書付事

（…略…）

一　毎年御年貢免定候ハヽ村中之者ニ披見為仕、庄屋・年寄方より村中大小百性出作之者へも不残相触寄合候て致免割、小物成・浮役・臨時物共ニ納へき米・銀壱人前宛委書付、小百性も疑敷不存様ニ其訳為申聞、右書付写させ其上免定之奥ニ別紙ヲ積候て立合披見仕候旨書付銘々印判取置へし、郷蔵之戸ニも免定之写いたし可張置、御年貢割仕候節村中夫銭・小入用ハ御年貢入夾一同ニ不致差別を立可割合、算違無之様ニ随分可念入御年貢之儀申渡日限之通相納候様ニ常々村中可申合事

（…略…）
右の条々堅可相守、此旨若違背之輩あらハ
可曲事、此帳面毎年正月・五月・九月・十一
月壱ケ年ニ四度村中大小之百性寄合慥ニ為
読聞常々此趣合点仕罷有候様ニ入念可申付者
也
元禄十一年寅ノ三月　　辻弥五左衛門

前書之御ケ条一々奉拝見村中大小之百性此五人組
壱人も除候者無御座候、御ケ条書則庄屋方ニ写置
申候て被仰渡之旨為読聞一ケ条宛致合点急度相守
可申候、若此旨相背申候ハヽ如何様之曲事ニも可
被仰付候、為其連判如此ニ御座候、以上

万多羅寺村庄屋
与一兵衛㊞
元禄十一年寅ノ三月　同村年寄
又兵衛㊞
同断
甚兵衛㊞
辻弥五左衛門様

同村平百性
組頭
太郎兵衛㊞
又兵衛㊞
次郎右衛門㊞
喜兵衛㊞
孫兵衛㊞
〆五人組

組頭
加右衛門㊞
正福寺㊞
平兵衛㊞
源兵衛㊞
仁兵衛㊞
〆五人組

組頭
与一兵衛㊞
益安㊞
利兵衛㊞
彦右衛門㊞
伊兵衛㊞
〆五人組

組頭
太右衛門㊞
忠右衛門㊞
喜右衛門㊞
久左衛門㊞
又左衛門㊞
〆五人組

組頭
三郎右衛門㊞
吉右衛門㊞
市郎兵衛㊞
太兵衛㊞
茂右衛門㊞
〆五人組

組頭
甚兵衛㊞
忠兵衛㊞
六右衛門㊞
安右衛門㊞
文清㊞
〆五人組

組頭
三右衛門㊞
正膳寺㊞
庄右衛門㊞
清三郎㊞
善兵衛㊞
〆五人組

組頭
茂兵衛㊞
九兵衛㊞
孫左衛門㊞
吉左衛門㊞
安兵衛㊞
新兵衛㊞
〆六人組

組頭
七郎右衛門㊞
作右衛門㊞
権兵衛㊞
九郎兵衛㊞
新右衛門㊞
吉郎右衛門㊞
〆六人組